

## 青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

### 「第41期はなやまボランティアスクール」

#### 1. 趣旨

全国28施設の国立青少年教育施設でボランティア活動が行える「法人ボランティア養成カリキュラム」において、ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

#### 2. 事業の概要

(1) 期日 令和2年10月31日(土)～11月1日(日)【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上のボランティア活動を志す方(一般成人・学生・高校生) 20名程度

②参加人数44

		10代	20代	30代	60代
男性	9名	1名	6名	1名	1名
女性	35名	18名	17名	0名	0名

【参加者の所属先】

- ・宮城学院女子大学 ・尚絅学院大学 ・東北学院大学 ・東北福祉大学 ・仙台大学
- ・仙台こども専門学校 ・社会人

#### 3. 企画運営のポイント

- ①ボランティアへの理解を促し、活動するボランティアを増やすため、講義の一部を利用した広報活動などで、大学等へ参加の呼びかけや、ボランティアから後輩等への声掛けを行った。
- ②先輩ボランティアに企画運営を任せるコマを設ける等、身近なモデルとして活躍することでボランティアの役割のイメージを持たせ、今後のボランティア活動につながるようにした。

#### 4. 日程 「法人ボランティア養成カリキュラム」科目名で記載

	10月31日(土)	11月1日(日)
午前	<開講式> 9:30 <説明Ⅰ> 9:50～10:50 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア <演習Ⅰ・Ⅱ> 11:00～14:30 「ボランティア活動の技術」 「自然体験活動の安全管理」 花山プログラム体験：御駒山登山 [担当] 国立花山青少年自然の家 次長・職員	<講義Ⅲ> 9:00～10:00 「青少年教育施設の現状と運営」 [講師] 国立花山青少年自然の家 所長 <演習Ⅰ・Ⅱ> 11:00～14:30 「ボランティア活動の技術」 「自然体験活動の安全管理」 花山プログラム体験：野外炊事 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア
午後	<講義・演習Ⅰ> 14:30～16:00 「安全管理」 [講師] 日本赤十字社宮城県支部 職員 <講義Ⅰ> 16:10～17:40 「青少年教育における体験活動」 [講師] 国立花山青少年自然の家 次長	<説明Ⅱ> 13:30～15:00 「登録制度について」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 <閉講式> 15:00 「修了証授与」
夜	[講義Ⅱ] 19:00～20:30 「ボランティア活動の意義」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア	

## 5. 主な活動内容

### ①説明Ⅰ「青少年教育施設におけるボランティア活動」



### ②講義Ⅱ「ボランティア活動の意義」



### ③演習Ⅰ「花山プログラム体験・御駒山登山」



### ④講義・演習Ⅰ「安全管理」



## 6. 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足：86.4% やや満足：13.6% やや不満：0% 不満：0%

### (2) 参加者の声

- ・アイスブレイクでどんなものが子どもたちに興味を持ってもらえるのか、大人の私たちも楽しめたので、こんな活動もあるのだと参考になった。
- ・登山の経験がほとんどない中での活動でしたが、もし、子供たちがいたらどんな対応をして、どんな声をかけるのか想定しながら活動できた。
- ・先輩ボランティアの話を聞いて、将来教育関係の仕事をしたと思っていたので、ボランティアで身につくもの、得られるものがたくさんあることを知れたので、もっとボランティア活動に参加したいと思った。
- ・登山で、ブルーシートを使って人を運ぶ方法についても実際に体験しながら学ぶことができた。
- ・職員の方や先輩ボランティアの方の表情がとても明るく、1泊2日の合宿でしたが楽しく過ごし、そして、多くのことを学ぶことができた。自分の保育感を広げ、指導方法についてもまねできるような姿を見ることができた。

### (3) 成果

- ・コロナ禍ということで、外部講師を最低限として職員とボランティア中心で事業を開催できた。
- ・意欲の高い大学生を中心に、想定よりも多い44名の参加で充実した活動ができた。
- ・先輩ボランティアが、様々な場面で主体的に取り組む姿が見られ、参加者の模範となった。
- ・体験活動のみではなく、青少年施設の現状や運営、仕組みについて学ぶことも出来た。
- ・コロナ禍の中で、日赤のご協力の下、救命講習を実施できた。

### (4) 課題

- ・大学への広報活動が十分に行えず、コロナ禍での開催となったので、参加した大学生の大学数や男女比に偏りが生じた。

担当：主任企画指導専門職 安達 章美